



【基本施策の目的】

高齢になっても、心身の健康を維持し、生きがいを持てるようにするとともに、介護や支援が必要となっても、住み慣れた地域の中で安心して暮らし続けることができる環境・仕組みを整えます。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	<p>高齢者は年々増加し、今後も増加傾向が続きます。とりわけ、ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、認知症高齢者の増加も予測されており、介護や支援を必要としない高齢者の割合は減少傾向にあることから、高齢者が生きがいをもち、自ら健康づくりに取り組む方を増加させていくことにより、地域で継続して自立した尊厳の保たれた生活をおくっていただく取り組みを強化していく必要がある。</p> <p>一方で、同一分野内で比較すると、地域における高齢者の見守り支えあいや、地域包括ケアシステムの考え方が障がい分野にも広がってきたことにより、地域福祉の取り組みが重要であることから、同一分野における今後の経営資源の配分の優先度は普通と判断した。</p>




【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
介護や支援を必要としない高齢者の割合	%	実績	88.8	88.6	88.4	88.5	88.3	<p>指標の値は、目指す方向性とは逆に減少傾向である。要因としては、高齢者に占める後期高齢者の割合が増加したことにより、介護や支援を必要としない高齢者の割合が減少したと考える。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、引き続き、介護リスクの高い後期高齢者数が前期高齢者数を上回って推移すると考えられることから、減少傾向が続くことが予想される。このことから、早期に介護予防に取り組める環境づくりに努め、日頃から健康いきいきポイントなどを活用した健康増進への働きかけを進めることで、介護や支援を必要としない高齢者の割合を高めていく。</p>
		目指す方向性							
生きがいを持って生活している高齢者の割合	%	実績	81.8	80.4	76.7	78.7	82.9	<p>指標の値は、目指す方向性とは逆に減少傾向にあったが、28年度から持ち直し29年度に初めて基準値を上回った。その要因としては、地域のサロン活動の充実やいきいきポイント制度を活用した支え合い活動の導入、地域福祉活動の活性化などにより上昇に転じたものと考ええる。</p>	<p>今後も後期高齢者の増加により介護や支援を必要とする高齢者の増加が予想されるが、早期の介護予防の取り組みなどにより健康寿命の延伸を図り、生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組む必要がある。まずは身近に集える拠点としてサロンや地域協議会などの活動の充実に努める。</p>
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	敬老会等運営事業は、今後、支給対象者が継続的に増加することに鑑み、事業の継続性を図るため、適正な見直しを図っていく。
実施計画事業	資源投入の考え方	老人福祉整備事業として、平成28年度より(仮称)第3老人福祉センター建設に必要な調査、検討を実施しており、平成31年度は基本計画の策定を実施し、今後は建設に向けて資源投入を行う必要があると判断している。

展開方向1	名称	高齢者の社会参加と生きがいを支援します						方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○生きがい活動から社会貢献活動まで、高齢者が長年培ってきた技術や経験を社会で発揮できるようにします。 ○地域における人とのつながりやふれあいを感じられるようにします。							
	所管課	長寿・障がい福祉課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度		
シルバー人材センター会員の就業率	%	実績	83.6	89.3	91.1	89.0	87.6	指標の値は、平成27年度をピークに目指す方向性とは逆に減少傾向である。就業機会が伸び悩む中、会員数が順調に増加したことにより、会員数の就業率が低下したことによる。	高齢者の増加に伴い、就業者会員数の増加が見込まれることから、雇用機会の拡大を図る必要があり、引き続きシルバー人材センターへの支援を行うことで、就業率の向上をはかる。
		目指す方向性							
地域活動やボランティア活動に積極的に参加している高齢者の割合	%	実績	26.6	26.5	26.8	25.2	31.3	指標の値は、高齢者に占める後期高齢者割合が増加したことにより減少傾向にあったが、29年度は支え合いいきいきポイント制度の導入や、サロンの増加など地域活動の活性化などから上昇に転じたものと考えられる。	地域における担い手として、高齢者に求められる役割は高まる一方である。自らの得意分野を活かし、少しでも何かに取り組める方が増えるよう、活躍の場や居場所づくり、活動の支援や人材の育成を図り、地域活動やボランティア活動に積極的に参加している高齢者の割合を高める。
		目指す方向性							
生涯学習やスポーツ活動などに積極的に参加している高齢者の割合	%	実績	32.2	30.6	29.7	28.5	30.1	指標の値は、高齢者に占める後期高齢者割合が増加したことにより、減少傾向にあったが、alkoや健康いきいきポイントの導入などきっかけづくりが広がってきたことなどから上昇に転じたものと考えられる。	目標や目的のある生活は健康づくりの基本であり、健康寿命を延ばす要因となる。また、自らの体調に関心をもち、早期に健康づくりに取り組めるきっかけとなるため、自らの得意分野を活かし、少しでもなにかに取り組める方が増えるよう、活躍の場の確保、活動の支援、人材の育成を図り、指標を高める。
		目指す方向性							

展開方向2	名称	高齢者の在宅生活を支援します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○健康で自立した高齢者を増やします。 ○住み慣れた場所で自立した暮らしを続けられるようにします。 ○認知症になっても家族と安心して生活できるようにします。								
	所管課	地域包括ケア推進課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
介護予防事業参加者数	人	実績	164	129	145	156	—	平成29年度より、介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、介護保険事業特別会計内での事業(一般介護予防事業)に移行したことにより、平成28年度で事業終了。	—	
		目指す方向性								
地域包括支援センターの利用者の割合(相談者数/65歳以上人口)	%	実績	9	11	10	11	11	指標値の推移は横ばい傾向である。相談件数自体は、平成29年度から地域包括支援センターが1ヶ所増設されたことや地域包括支援センターの出張相談等により増加傾向であるが、相談件数の増加より65歳以上人口の増加割合の方が高いことから指標としては横ばいとなっている。	今後の指標値の見通しであるが、指標の分子である相談件数については認知症高齢者等の増加も予想されることから増加傾向と予想しているが、分母の65歳以上高齢者数の伸び率が大きいことから数値としては横ばいか減少傾向になると捉えている。現在、地域支え合い推進員をはじめリハビリテーション等専門職などが地域に関わっていきける環境づくりを進めているところであり、今後は、市民からの直接的な相談だけでなく専門職からの相談件数等を伸ばしていくことで指標の改善を図る方針である。	
		目指す方向性								
認知症見守りネットワーク会員数	人	実績	904	1,275	1,331	1,318	1,315	指標値は、目指す方向性のとおり増加傾向にあったが、電子メールの普及にあわせてメール会員が増加した一方で、FAX利用が減少していることにより、FAX会員が減少し、会員数が減少した。	見守る目が多いほど、早期発見につながるため、会員数の増加を目指すのが、ネットワークの認知度が低いことが会員数の停滞の要因であると考えられることから、広報等を活用して啓発を行っている。	
		目指す方向性								
認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	人	実績	6,304	10,134	12,621	14,845	17,303	指標値については目指すべき方向性のとおり増加傾向である。地域包括支援センターが地域住民が集う場所や小・中学校、企業に向けて積極的に養成講座を実施したことにより、受講者数が増加した。	認知症に関する関心が高まっていることなどから指標値については今後も増加すると見込んでいる。今後は、これまでの取り組みを継続する中で、特に市内企業への働きかけを強めていくことで更なる指標の改善を図っていく。 ※介護保険事業特別会計で認知症総合支援事業・認知症サポーター養成事業を実施	
		目指す方向性	